

「職人」と「分析屋」

取締役 千葉事業所長 兼 筑波事業所長 竹田 菊男



いつまでも続く梅雨空のように、国内経済は産業空洞化とデフレ不況で一向に晴れ間がみえてこない。産業空洞化の本質は、魅力ある新しい産業が生まれていないことにもある。日本産業とくに製造業が国際競争に勝ち残り発展していくためには、高付加価値の新規需要を開拓し、差別化された商品の供給を図る、すなわちお客様を引き付ける魅力ある新しいものを社会に提供することが必要である。また他に模倣されな

いで競争優位の状態を持続させていくことも必要である。魅力があって模倣されない優れた技術という「匠(たくみ)の技(わざ)」、職人による仕事を思い出す。

現在の不況下での若者の就職難がその背景にあるかもしれないが、若者達の間では大企業に入ってサラリーマンになるよりも、むしろ特殊な技能を身に付ける職人を目指す若者が増加してきているという。職人とは、おもに手先の優れた技術でものを作る職業のことである。自分なりのホームグラウンドがあり、そこで己の限界を広げながら無形の財産を築く人でもある。大工、靴、陶芸などの技能を身に付けて職人になることは、会社人生より自分が生かして格好が良いというあこがれもあるようだ。昨年実施された「親が望む

子供の職業」の調査結果でも1位の公務員、2位のスポーツ選手、3位の医師に次いで職人が第4位を占めた。約10年前の調査では職人が15位であったというから驚きである。

欧米から導入された現在の産業は、分業化、規格化、量産化という近代的技術体系に基づいた生活文化でもあった。この近代化技術は我々に豊かな生活を与えてくれたが、最近になって成長優先による環境問題などの弊害に加えて、分業化、規格化に潜む個性無視の考え方の弊害なども問題として起こってきている。これも若者達に職人という仕事が見直されてきている一因かもしれない。

日本経済の復活する道がいろいろ議論されているが、いずれにしても、これまでのやり方を根本から見直すことが必要である。ナノテクノロジーなどの先端技術で、独自の技術と需要を開拓することが有効な解決法であると言われている。一般に技術が進歩すれば、人間のやるべきことが機械やコンピューターに代替されると思われてきた。しかし実際にはナノテクノロジーなど最先端分野になればなるほど、人間でなければ出来ないことが増えてきている。専門的な能力と技術・技能を持つ人が今後ますます重要な役割を果たしていくものと思われる。

私どもは分析サービス業であるが、分析技術者も一種の職人であると考えられないだろうか。大工の棟梁のようにお客様の希望を伺い、分析技術のみに留まらない広範囲の技術・

知識と工夫、自ら鍛えた技術と技能を最大限に注力してご希望に適った商品(分析・解析結果)をお渡しする。自らが納得し、お客様に満足されるものが出来上がったときほど嬉しいものはない。また新たな発見や、他では出来なかったことを可能にした時などまさに分析屋という職人の喜びを感じる瞬間であろう。

一般の職人に対するイメージは、手造りで効率が悪く遅れている、革新を嫌い頑固で狭い範囲のことしかしない人といったマイナスのイメージがある一方、手造りで素晴らしい、常にこだわりをもった仕事に生き甲斐を求めるプロ、全体を理解して習得している人、常に工夫し最上のものを求めてやまない人といったプラスのイメージもある。

ナノテクノロジーは次代を担う技術として注目を浴びている。我が国にとっても得意とする分野である。これらの最先端の分野で職人が期待され、力を発揮できる場が広がってきている。職人の一般的なマイナスイメージ、すなわち視野が狭く、技術面や専門分野にとらわれて成果応用、総合化など全体に目が向かない、理論に弱いといったことが克服できたとき、職人的仕事のやり方に対する社会的要請はますます増大するであろう。

体系的な知識を持ち、理論に立脚した総合的な判断力があり、修練を積んだ人間でなければできない仕事ができる、そんな職人たちによって21世紀の産業日本を切り拓いていって欲しいものである。



千葉事業所と愛媛事業所は、ISO 17025に基づく認定事業所で、環境分野や化学工業製品分野などにおける特定項目の認定を受けております。
千葉事業所の認定番号: JCLA1
愛媛事業所の認定番号: JCLA5

当社事業所はISO-9001およびISO14001の審査登録も受けています。

千葉・筑波事業所: JQA-1105 / 01ER-171
大阪・岡山事業所: JQA-1814
愛媛事業所: JCQA-0253 / JCQA-E-0465
大分事業所: JQA-QM3707 / JQA-EM2093

編集後記

「医薬関連」をテーマにしたSCAS NEWS 2003- をお届けいたします。2000年1月に発行した2000- でも医薬関連をテーマにして、医薬分野で使われている分析化学的手法の紹介を行いました。本号では、より医薬分野に踏み込んでいきます。

ディ・スリー研究所の堀江所長から医薬品開発における薬物動態評価の重要性についてご提言いただきました。

きました。神戸薬科大学の太田教授には、生理活性物質を利用した臨床検査分析について解説していただきました。また、医薬関連の弊社技術の一部として、微生物試験技術や薬物相互作用の予測について紹介させていただきました。なお内容が専門的で医薬分野以外の人には若干理解しづらいかもしれないと懸念しています。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしく御願ひ申し上げます。

編集・発行 株式会社社化分析センター 発行日 2003. 8.22 2003- (通巻18号)
〒541-0043 大阪市中央区高麗橋 4-6-17 TEL06-6202-1807 FAX06-6202-0116
ホームページ <http://www.scas.co.jp> E-mail: webmaster@scas.co.jp

はアインシュタインの疑問符です。彼のあくなき好奇心と探求心こそが、宇宙真理発見の原動力だったのかも知れません。

SCAS Sumika Chemical Analysis Service

東京営業所	TEL 03-3257-7201	大阪事業所	TEL 06-6466-5247
大阪営業所	TEL 06-6202-1000	筑波事業所	TEL 029-864-4741
千葉営業部・千葉事業所	TEL 0438-64-2281	ファーマ事業部	TEL 06-6466-5246
岡山営業部・岡山事業所	TEL 086-477-8103	環境技術センター	TEL 0438-63-6176
愛媛営業部・愛媛事業所	TEL 0897-32-3411	パイオ技術センター	TEL 06-6466-5251
大分営業部・大分事業所	TEL 097-523-1181	SCAS SINGAPORE PTE LTD.	TEL 65-6899-3819

本誌は再生紙を使用しています